

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月28日

都道府県知事
(市長) 千葉市長 神谷 俊一 殿



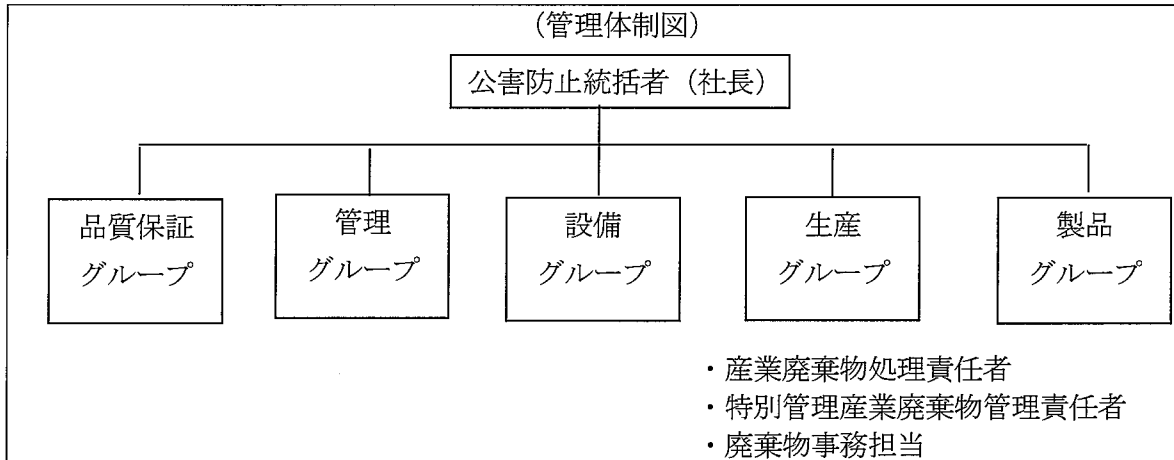
提出者
住 所 261-0002 千葉市美浜区新港36番
氏 名 新東日本製糖株式会社
代表取締役社長 佐々木 洋治
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 043-242-8641

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	新東日本製糖株式会社 本社工場
事業場の所在地	千葉市美浜区新港36番
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 [✓]
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：食料品製造業 小分類：糖類製造業
②事業の規模	前年度の製品出荷額：81億円
③従業員数	207人（自社：144人、関連会社・下請け会社：63人）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙-1の通り

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 5年度）実績】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 原料濾過工程及び、排水処理工程の見直しをしたことにより、汚泥の排出を削減した。		
② 計画	【目標】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 原料濾過工程及び、廃水処理の見直しを継続し汚泥排出量を削減して行く。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 区分分別の徹底。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 工場内の社員、作業員、工事業者へ分別の徹底の呼びかけを行う。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

	【前年度（ ５年度）実績】 別紙-２の通り		
① 現状	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥乾燥率のアップで汚泥を再利用に廻した。		
② 計画	【目標】 別紙-２の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き汚泥乾燥率のアップで汚泥の再利用を行う。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 5年度）実績】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	
	（これまでに実施した取組） 余剰汚泥ケーキの再生処理業者と新たに処分委託契約を結び、再生利用を増やした。		
② 計画	【目標】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	
	（今後実施する予定の取組） 汚泥乾燥機のトラブルを無くして稼働率を上げて再生利用を増やす。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 5年度）実績】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） これまでに、自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない。		
② 計画	【目標】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き、埋立処分又は海洋投入処分を行う予定はない。		

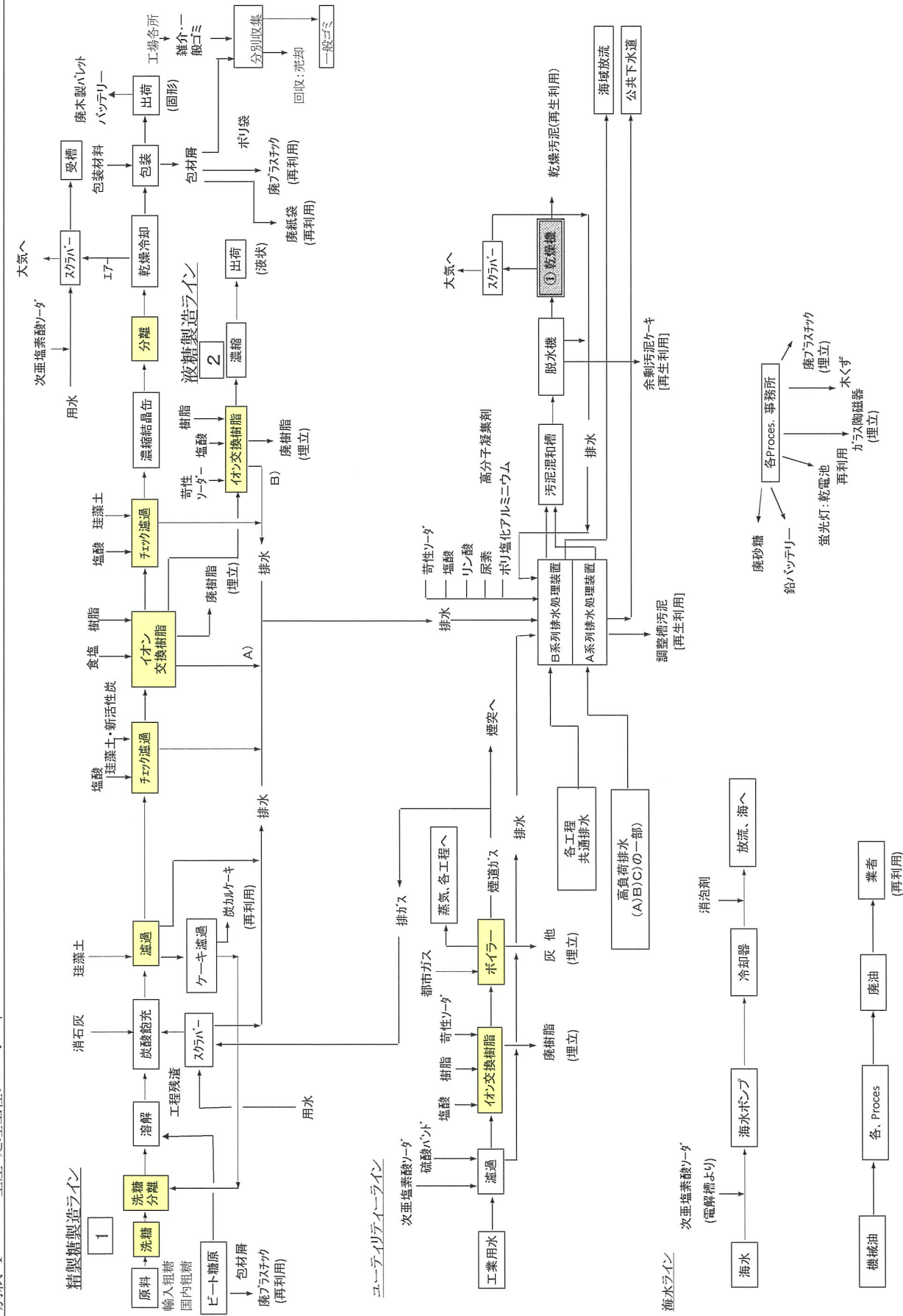
産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 5年度）実績】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	（これまでに実施した取組） 委託処分先の業者管理の強化、監査を行った。 受入量と処分量が適正であるか、未処理のまま放置されていないか など、査察項目を決め行う。		

② 計画	【目標】 別紙-2の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 委託処分先の業者管理の強化、監査を行う。 引き続き、受入量と処分量が適正であるか、未処理のまま放置されて いないかなど、査察項目を決め行う。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



1	生産施設名番号	①乾燥機	注※ 中間処理施設番号
		洗糖	産業廃棄物中間処理施設 大気汚染防止法及び、 水質汚濁防止法特定施設

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（５年度）実績】									
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・廃薬品）	
	排出量	15349t	0.9t		148t		6t	0.6t	
【目標】									
②計画	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・廃薬品）	
	排出量	15994t			90t	2t	3t	2.0t	
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項									
【前年度（５年度）実績】									
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・廃薬品）	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量								
②計画	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・廃薬品）	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量								
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項									
【前年度（５年度）実績】									
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・廃薬品）	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量								
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	8532t							
	【目標】								
②計画	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・廃薬品）	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の種類								
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	8605t							
	【目標】								

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に關する事項

【前年度（ 5年度）実績】									
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	木くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・燃費品）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	木くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・燃費品）
①現状	全処理委託量	6816t	0.9t		148t		6t		0.6t
	優良認定処理業者への処理委託量	197t			59t		6t		0.6t
②計画	再生利用業者への処理委託量	6041t			110t		6t		0.6t
	認定熱回収業者への処理委託量								
②計画	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				6t				
	【目標】								
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃油	廃プラスチック類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	木くず	燃えがら	その他（蛍光灯・乾電池・燃費品）
	全処理委託量	7389t			90t	2t	3t		2.0t
②計画	優良認定処理業者への処理委託量	430t			38t		3t		2.0t
	再生利用業者への処理委託量	7385t			60t		3t		2.0t
②計画	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				8t				